大阪インターナショナルチャーチ　　アリステア・マッケナ師　　2015/11/15

ヨシュア記8：1-35「アイ陥落」

8:1 【主】はヨシュアに仰せられた。「恐れてはならない。おののいてはならない。戦う民全部を
連れてアイに攻め上れ。見よ。わたしはアイの王と、その民、その町、その地を、あなたの手に
与えた。 8:2 あなたがエリコとその王にしたとおりに、アイとその王にもせよ。ただし、その分捕
り物と家畜だけは、あなたがたの戦利品としてよい。あなたは町のうしろに伏兵を置け。」 8:3 そ
こで、ヨシュアは戦う民全部と、アイに上って行く準備をした。ヨシュアは勇士たち三万人を選
び、彼らを夜のうちに派遣した。 8:4 そのとき、ヨシュアは彼らに命じて言った。「聞きなさい。
あなたがたは町のうしろから町に向かう伏兵である。町からあまり遠く離れないで、みな用意を
していなさい。 8:5 私と私とともにいる民はすべて、町に近づく。彼らがこの前と同じように、私
たちに向かって出て来るなら、私たちは彼らの前で、逃げよう。 8:6 彼らが私たちを追って出て、
私たちは彼らを町からおびき出すことになる。彼らは、『われわれの前から逃げて行く。前と同
じことだ』と言うだろうから。そうして私たちは彼らの前から逃げる。 8:7 あなたがたは伏してい
る所から立ち上がり、町を占領しなければならない。あなたがたの神、【主】が、それをあなた
がたの手に渡される。 8:8 その町を取ったら、その町に火をかけなければならない。【主】の言い
つけどおりに行わなければならない。見よ。私はあなたがたに命じた。」 8:9 こうして、ヨシュア
は彼らを派遣した。彼らは待ち伏せの場所へ行き、アイの西方、ベテルとアイの間にとどまった。
ヨシュアはその夜、民の中で夜を過ごした。 8:10 ヨシュアは翌朝早く民を召集し、イスラエルの
長老たちといっしょに、民の先頭に立って、アイに上って行った。 8:11 彼とともにいた戦う民は
みな、上って行って、町の前に近づき、アイの北側に陣を敷いた。彼とアイとの間には、一つの
谷があった。 8:12 彼が約五千人を取り、町の西側、ベテルとアイの間に伏兵として配置してから、
8:13 民は町の北に全陣営を置き、後陣を町の西に置いた。ヨシュアは、その夜、谷の中で夜を過
ごした。 8:14 アイの王が気づくとすぐ、町の人々は、急いで、朝早くイスラエルを迎えて戦うた
めに、出て来た。王とその民全部はアラバの前の定められた所に出て来た。しかし王は、町のう
しろに、伏兵がいることを知らなかった。 8:15 ヨシュアと全イスラエルは、彼らに打たれて、荒
野への道を逃げた。 8:16 アイにいた民はみな、彼らのあとを追えと叫び、ヨシュアのあとを追っ
て、町からおびき出された。 8:17 イスラエルのあとを追って出なかった者は、アイとベテルにひ
とりもないまでになった。彼らは町を明け放しのまま捨てておいて、イスラエルのあとを追った。
8:18 そのとき、【主】はヨシュアに仰せられた。「手に持っている投げ槍をアイのほうに差し伸
ばせ。わたしがアイをあなたの手に渡すから。」そこで、ヨシュアは手に持っていた投げ槍を、
その町のほうに差し伸ばした。 8:19 伏兵はすぐにその場所から立ち上がり、彼の手が伸びたとき、
すぐに走って町に入り、それを攻め取り、急いで町に火をつけた。 8:20 アイの人々がうしろを振
り返ったとき、彼らは気づいた。見よ、町の煙が天に立ち上っていた。彼らには、こちらへも、
あちらへも逃げる手だてがなかった。荒野へ逃げていた民は、追って来た者たちのほうに向き直
った。 8:21 ヨシュアと全イスラエルは、伏兵が町を攻め取り、町の煙が立ち上るのを見て、引き
返して来て、アイの者どもを打った。 8:22 ある者は町から出て来て、彼らに立ち向かったが、両
方の側から、イスラエルのはさみ打ちに会った。彼らはこの者どもを打ち、生き残った者も、の
がれた者も、ひとりもいないまでにした。 8:23 しかし、アイの王は生けどりにして、ヨシュアの
もとに連れて来た。 8:24 イスラエルが、彼らを追って来たアイの住民をことごとく荒野の戦場で
殺し、剣の刃で彼らをひとりも残さず倒して後、イスラエルの全員はアイに引き返し、その町を
剣の刃で打った。 8:25 その日、打ち倒された男や女は合わせて一万二千人で、アイのすべての
人々であった。 8:26 ヨシュアは、アイの住民をことごとく聖絶するまで、投げ槍を差し伸べた手
を引っ込めなかった。 8:27 ただし、イスラエルは、その町の家畜と分捕り物を、【主】がヨシュ
アに命じたことばのとおり、自分たちの戦利品として取った。 8:28 こうして、ヨシュアはアイを
焼いて、永久に荒れ果てた丘とした。今日もそのままである。 8:29 ヨシュアはアイの王を、夕方
まで木にかけてさらし、日の入るころ、命じて、その死体を木から降ろし、町の門の入口に投げ、
その上に大きな、石くれの山を積み上げさせた。今日もそのままである。 8:30 それからヨシュア
は、エバル山に、イスラエルの神、【主】のために、一つの祭壇を築いた。 8:31 それは、【主】

のしもべモーセがイスラエルの人々に命じたとおりであり、モーセの律法の書にしるされているとおりに、鉄の道具を当てない自然のままの石の祭壇であった。彼らはその上で、【主】に全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえをささげた。 8:32 その所で、ヨシュアは、モーセが書いた律法の写しをイスラエルの人々の前で、石の上に書いた。 8:33 全イスラエルは、その長老たち、つかさたち、さばきつかさたちとともに、それに在留異国人もこの国に生まれた者も同様に、【主】の契約の箱をかつぐレビ人の祭司たちの前で、箱のこちら側と向こう側とに分かれ、その半分はゲリジム山の前に、あとの半分はエバル山の前に立った。それは、【主】のしもべモーセが先に命じたように、イスラエルの民を祝福するためであった。 8:34 それから後、ヨシュアは律法の書にしるされているとおりに、祝福とのろいについての律法のことばを、ことごとく読み上げた。 8:35 モーセが命じたすべてのことばの中で、ヨシュアがイスラエルの全集会、および女と子どもたち、ならびに彼らの間に来る在留異国人の前で読み上げなかったことばは、一つもなかった。

<u>導入</u>

先々週、アイに敗北した残念な話を学びました。その際、7章の文章構成を考察することで、敗北した理由がわかりました。

7章1節には、神が怒っておられたとあります。そして、26節には、神の怒りが収まったことがわかります。

その間の個所に、神が怒っておられる理由が記されていました。イスラエルの軍勢のひとりの人が、ヨシュアをとおして語られた神の命令に背いたのです。彼の名はアカンと言いました。アカンは、エリコの戦いの際に聖絶のものを持ち帰りました。神はこれらのものを破壊するよう命じておられました。アカンは他に、金と銀も持ち帰っていました。これらは神のために置いておくべきものでした。

アカンの罪が原因で、神はイスラエル全体を罰せられたので、イスラエルはアイの軍勢に敗れました。アカンとその家族の罪が明らかとなったとき、神は彼らを罰して殺されました。民が罪の深刻さをはっきりと知るためです。異教の民だけでなく、神の民の間でもそれは同じであることを神は民に知らされたのです。

ひとりの人が原因で、ヨシュアと民全体が敗北しました。しかし、罪への対処が済んだ今、神はご自身の戦いを前進させられます。

8章の学びに入る前に、信仰において大切なことをお話したいと思います。

アカンの罪に対処するのは、ヨシュアにとってもイスラエルの民にとってもつらいことでした。しかし、神の働きが前進しつづけるためには、避けては通れないことでした。

神による懲らしめを受け入れようとしないクリスチャンもいます。しかし、それでは信仰の進歩はありません。懲らしめられることで、自分の進もうとする道が閉ざされたり、つらい思いをしたりするのを嫌がると、それによる影響が伴います。信仰が停滞し、多くの場合、不満が募り、神から心が離れていってしまいます。

けれども、ルカ15章に登場する放蕩息子のように、いつでも神のもとへ帰る道はあります。私たちはただ罪を認め、悔い改めて、神の赦しを受け取ればよいのです。つらいかもしれませんが、悔い改める罪人を、神は喜んで赦してくださいます。

では、8章の学びを始めましょう。

1. <u>神がヨシュアを励まされる。（1-8節）</u>

1節を見ると、ヨシュアはひざまずいていたか、地面にひれ伏していたのでしょうか。おそらく、まだアカンの罪のことで悲しみ、祈りながら、これからどうするか考えていたのでしょう。

神は、ヨシュアを励ますために、5つのことを与えてくださいました。

まず、慰めのことばを与えてくださいました。（1節）

神は、「恐れてはならない。おののいてはならない。」とおっしゃいました。ヨシュアは将来についての確信を必要としていました。神は、1章5節で、ヨシュアを倒せる者は一生出てこないと約束しておられます。ヨシュアは、この一連の出来事にとても心悩ませていたことでしょう。

ボクシングの言葉を借りるなら、ヨシュアはノックダウンされた状態でしたが、まだノックアウトではありませんでした。

先日私は、プロボクサーにとって、地面に体がついたダウンの状態は一番負けに近い状態だと知りました。

ボクサーには、もう一度立ち上がるまで9秒間の猶予があります。ここで力を振り絞ってもう一度立てば、対戦相手を驚かせて勝利することも可能です。

私たちも霊的にノックダウンされたら、悔い改めて、神の栄光のために力を振り絞るのです。つまり、人生を完全に神にささげるのです。

そうすれば、敗北が勝利へと変えられます。

神は、霊の戦いでふたたび私たちを用いてくださるでしょう。

神は「すべての慰めの神」です（イザヤ40：1、コリント第二1：3）

神は、ご自身のみことばをとおして慰めてくださいます。（詩篇119：50、128）

ヨシュアと同様、神は私たちにも自己憐憫に陥ることを望まれません。私たちが神の方法で神の働きを続けることを望まれます。

次に、神はヨシュアに指令のことばをお与えになりました。（1-3節）

1節で、神はヨシュアに、戦う民全部（20歳以上の兵士）を連れてアイを攻めるようにとおっしゃいました。3節によると、それは勇士三万人でした。

前回の3,000人とは大違いです。（7章4節）

神は全員が参加することを望まれました。ヨシュアは前回の戦いでたった一割だけを連れていき、敗北しました。

（軍勢には少なくとも35,000人の兵士がいたことがわかります。12節参照）

神は、今回の戦いには神が加わっておられ、すべての兵士が参加することを要求しておられることを、ヨシュアに知らせました。

適用 –神のために何かを計画するとき、全員が関わる必要があります。

神の民とは、イエスに信仰をおいて新生したすべての人です。その全員が、OIC における神の働きに参加する必要があります。

OIC が神とともに前進するには、みんなが関わらなければなりません。

OIC の財政難を解決するには、全員が「什一献金」と「捧げ物」に参加する必要があります。

日曜学校の人手不足を解消するには、みんなが協力しなければなりません。

教えたり、通訳したり、助手になったりできないなら、日曜学校のための祈り手になってください。

ここであえて議論の起こりそうなことを言わせていただきます。けれどもこれは聖書の教えに沿ったことです。神は仕事よりも優先されなければなりません。職場はあなたの神ではありません。

マタイ22：36-40

22:36 「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」 22:37 そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』 22:38 これがたいせつな第一の戒めです。 22:39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。 22:40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

日本では長時間労働が強いられますが、それは非効率的です。

英国に、日産の工場があります。最初、日本人の経営陣は生産台数を増やすために労働時間数も増やそうとしました。

これに対し、イギリス人の幹部たちは、週5日、一日8時間労働のほうが効率が上がり、労働時間数の長い日本の工場より多くの台数を生産できると説得しました。

イギリス人の幹部の言い分が正しかったことは証明済みです。日産の英国工場は、世界一効率のよい工場だからです。

疲れていると、ミスをしやすくなり、効率が悪くなりがちです。

もし私が日本の会社に勤めていたら、今より短い就業時間で忠実に働き、もっと効率を上げることができる、と提案するでしょう。

そうすれば自由になる時間で、体を休め、神に仕えることができます。

このようにして、神が正しいことを証する立場になれます。もしかすると皆さんにも神が勇気を与えてくださったら、少なくともこういうことをやってみようと思えるかもしれません。

神はサムエル第一2：30でおっしゃいます。「わたしは、わたしを尊ぶ者を尊ぶ。」

では、ヨシュアの学びに戻りましょう。

<u>神はヨシュアに、戦略のことばを与えてくださいました。（2節）</u>

神はヨシュアに、アイの町のうしろに「伏兵を置け。」とおっしゃいました。今回は、エリコの時のように、町の周りを歩くようには命じられませんでした。神には別のご計画がありました。神はいつも同じように働かれるとは限りません。神は、人が100％神に頼ることを望まれます。決まった方法や計画をあてにするのではありません。

神は、戦いのためにすばらしい戦略を与えてくださいました。これは、神のご計画ですから、民は100％従わなければなりません。

信仰は、地道な努力の代用にはなりません。神は民に勝利を約束なさいましたが、民は最善を尽くし、神のご計画に聞き従わなければなりませんでした。

数週間前に次のようなことを学びました。私たちは自分で計画を立てて神に祝福を求めることがあります。しかし、本来は神のご計画を伺い、それに全力で従うべきです。そうすれば、うまくいくと確信することができます。

コリント第一15：58は、私たちの努力は無駄にならないので、主のわざに励みなさい、と語ります。

Ｉコリント 15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。

エペソ6：13は、神のすべての武具を着けるようにと勧めます。

神のご計画には、たいへんな努力がつきものです。この場合も例外ではありませんでした。

神はヨシュアに約束を与えてくださいました。（1節）

神は、ヨシュアに勝利を約束なさいました。1節で、神は、「わたしはアイの王と、その民、その町、その地を、あなたの手に与えた。」とおっしゃいました。

ヨシュアがしなければならないのは、神のことばを信じ、言われたとおりに神の方法で物事をなすことです。

神が私たちの心に語られると、神がご自身の約束に忠実であられると信じるなら、人には不可能なことでも、たいへんな状況を乗り越えることができます。

私たちのなすべきことは、神のみことばである聖書をとおして語られる「かすかな細い声」を聞けるよう、神に近づくことです。

神はヨシュアに語られたように、今の時代も語っておられます。信仰生活には今も戦いがあります。また、私たちのうちに、そして私たちをとおして、神がなそうとしておられることがまだあります。

神はヨシュアに、報いについて語られました。（2節）

今回の戦いには、報いがあります。神は、家畜などの戦利品を与えてくださるのです。

アカンは、神のみこころによって定められた報いを得るタイミングを待つことができませんでした。神に従って待った人は、今回、報いを約束されたのです。

私たちも、もう少し待てば私たちを正しい道に導いてくださる神の御手を見ることができるのに、ということがあります。

12年ほど前のことですが、私があと数週間待っていれば、私の奉仕で取るべき次のステップについて神のご計画を知ることができたのに、という経験をしました。

そうすれば、つらい体験を避けられたかもしれません。

教会の牧師職を離れて宣教師組合の主事になることは、当時正しい選択に思えました。しかし、その決断について私は悔い改めなければなりませんでした。その報いは、燃え尽き症候群という経験でした。

それでも神は私の人生の主権者であられます。私は結局ロンドンを離れ、故郷で10年間牧師として仕えました。

どうか皆さんが、神のみこころから逸れて、一度痛い目に遭わなければ学ばないということになりませんように。神が心に語ってくださるのを待ちましょう。神がひとりひとりに合った道を開いてくださるのを待ちましょう。

神が導いてくださるのを待ち望むなら、神はちゃんと報いてくださいます。みことばを読む中で、神が語ってくださるでしょう。

神がヨシュアに与えてくださった励ましの部分から、ヨシュアが戦う戦いの部分へと話を進めましょう。

2. 戦いについての指令をヨシュアが民に告げる。（3-29節）

3-9節には、アイでの戦いについての指令をヨシュアが民に与え、その指令に3万人の兵士が従う様子が記されています。

ヨシュアは、奇襲攻撃をかけると兵士に伝えます。

3節で、ヨシュアは3万人の勇士たちに、夜のうちに行って町のうしろで伏して待つように命じました。

ヨシュア8：5-9

8:5 私と私とともにいる民はすべて、町に近づく。彼らがこの前と同じように、私たちに向かって出て来るなら、私たちは彼らの前で、逃げよう。 8:6 彼らが私たちを追って出て、私たちは彼らを町からおびき出すことになる。彼らは、『われわれの前から逃げて行く。前と同じことだ』と言うだろうから。そうして私たちは彼らの前から逃げる。 8:7 あなたがたは伏している所から立ち上がり、町を占領しなければならない。あなたがたの神、【主】が、それをあなたがたの手に渡される。 8:8 その町を取ったら、その町に火をかけなければならない。【主】の言いつけどおりに行わなければならない。見よ。私はあなたがたに命じた。」 8:9 こうして、ヨシュアは彼らを派遣した。彼らは待ち伏せの場所へ行き、アイの西方、ベテルとアイの間にとどまった。ヨシュアはその夜、民の中で夜を過ごした。

9節で、ヨシュアは兵士たちといっしょに過ごしたとあります。兵士たちを励まし、後押ししていたのでしょう。

10節には、ヨシュアが翌朝早く起きて、5,000人を連れてアイの人々の前に現れます。しかし、これはわなでした。

今度はアイの人々が、前回のようにイスラエルを負かすことができると自分たちの力に自信を持っていました。

アイの王は、全兵力を従えて戦いに出てしまい、町を無防備なままにしてしまいました。これは大失敗でした。こうして3万人の伏兵は町に流れ込み、戦利品を得て、町に火をつけました。

アイの兵士たちは、町が燃えるのを見て恐れをなしました。そしてようやく、5,000人と3万人に挟み撃ちにあったことに気づいたのです。

アイの人々は戦いに負けました。神がご自身の民を率いておられ、民が神によって与えられた命令にすべて従ったからです。

神が曲がった社会に裁きを下されました。

いつか私たちの生きる社会にも同じようになさるでしょう。現代、世界中で、歴史上もっとも多くのクリスチャンが信仰のために殺されています。殺されたり迫害されたりしてい

ない場所でも、信仰のために軽蔑されたり、しいたげられたりしています。英国や米国でもそのようなことが起こっています。

黙示録 6:10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」

神はいつの日か裁きを下されます。イエスの再臨はそう遠くはなりでしょう。

適用

敗北か勝利かの決め手は、神のみことばへの従順です。

また、置かれた立場で最善を尽くすことです。

人がその人生を完全に主イエスにおささげすれば、主は私たちの失敗も用いてご自身の栄光となすことがおできになります。主は私たちに何度でもチャンスを与えてくださいます。

英国の説教者 F.W.ロバートソンは言いました。

「人生も戦いのように失敗の連続である。過ちの少ない者が最善のクリスチャン、最善の将軍ではない。それは凡人でも達し得ることである。過ちから立ち直り、輝かしい勝利を収める者こそが、最善である。過ちは忘れよ。過ちから勝利を導き出すのだ。」

アメリカの自動車会社フォード・モーターの創設者ヘンリー・フォードは、失敗について、さらなる知識を得てもう一度やり直すチャンスだと言いました。ヨシュアは、確かにそのチャンスを活かしました。私たちもクリスチャン生活で同じようにできます。失敗から学び、さらなる知識を得て神のみことばに従うことができます。

3. 契約を新たにする。（30-35節）

30-35節を理解するには、旧約聖書のもっと前の書に目を向ける必要があります。では、申命記11：26-32を開きましょう。

申命記11：26-32

11:26 見よ。私は、きょう、あなたがたの前に、祝福とのろいを置く。 11:27 もし、私が、きょう、あなたがたに命じる、あなたがたの神、【主】の命令に聞き従うなら、祝福を、 11:28 もし、あなたがたの神、【主】の命令に聞き従わず、私が、きょう、あなたがたに命じる道から離れ、あなたがたの知らなかったほかの神々に従って行くなら、のろいを与える。 11:29 あなたが、入って行って、所有しようとしている地に、あなたの神、【主】があなたを導き入れたなら、あなたはゲリジム山には祝福を、エバル山にはのろいを置かなければならない。 11:30 それらの山は、ヨルダンの向こう、日の入るほうの、アラバに住むカナン人の地にあり、ギルガルの前方、モレの樫の木の付近にあるではないか。 11:31 あなたがたは、ヨルダンを渡り、あなたがたの神、【主】があなたがたに与えようとしておられる地に入って、それを所有しようとしている。あなたがたがそこを所有し、そこに住みつくとき、 11:32 私がきょう、あなたがたの前に与えるすべてのおきてと定めを守り行わなければならない。

次に、申命記27：1-8を読みましょう。

27:1 ついでモーセとイスラエルの長老たちとは、民に命じて言った。私が、きょう、あなたがたに命じるすべての命令を守りなさい。 27:2 あなたがたが、あなたの神、【主】が与えようとしておられる地に向かってヨルダンを渡る日には、大きな石を立て、それらに石灰を塗りなさい。 27:3 あなたが渡ってから、それらの上に、このみおしえのすべてのことばを書きしるしなさい。それはあなたの父祖の神、【主】が約束されたとおり、あなたの神、【主】があなたに与えようとしておられる地、乳と蜜の流れる地にあなたが入るため

である。 27:4 あなたがたがヨルダンを渡ったなら、私が、きょう、あなたがたに命じるこれらの石をエバル山に立て、それに石灰を塗らなければならない。 27:5 そこに、あなたの神、【主】のために祭壇、石の祭壇を築きなさい。それに鉄の道具を当ててはならない。 27:6 自然のままの石で、あなたの神、【主】の祭壇を築かなければならない。その上で、あなたの神、【主】に全焼のいけにえをささげなさい。 27:7 またそこで和解のいけにえをささげて、それを食べ、あなたの神、【主】の前で喜びなさい。 27:8 それらの石の上に、このみおしえのことばすべてをはっきりと書きしるしなさい。

モーセは、神の民が約束の地に着いたらどうするべきか指示を与えました。

ヨシュアはその指示を実行しているのです。

ヨシュアは、イスラエルの民をシェケムから約50ｋｍの場所に導きました。そこには、エバル山とゲリジム山の間に谷がありました。その場所の重要性に注目してください。

では、創世記12：6-7を開きましょう。

12:6 アブラムはその地を通って行き、シェケムの場、モレの樫の木のところまで来た。当時、その地にはカナン人がいた。 12:7 そのころ、【主】がアブラムに現れ、そして「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える」と仰せられた。アブラムは自分に現れてくださった【主】のために、そこに祭壇を築いた。

神はアブラハムに、ご自身の民にいつか土地を与えると約束なさいました。その約束をなさったまさにその場所に、神は民を導かれ、律法と祝福とのろいをお聞かせになりました。

私たちはこの場所の重要性に気づくべきです。というのも、そこに神のご誠実さが示されているからです。これは、神の約束は時の流れによって無効にならないことを物語ります。このことは、私たちを励ましてくれます。神が約束を成就してくださるのを待っている人がここにもいるのではないでしょうか。

妻のウェンディは、1992年3月に、いつの日かまた日本に戻ってくるという約束を神からいただきました。これは、私たちが4人の子どもたちを連れて日本を離れる数週間前のことでした。神がウェンディに約束なさったことが実現するのに23年間かかりました。けれども、神は約束どおりにしてくださいました。神はご自身の約束に忠実なお方です。

30節は、ヨシュアがエバル山に主のための祭壇を築いたと語ります。

祭壇は、鉄製の道具を当てていない自然のままの石でなければなりませんでした。切り出した石ではだめなのです。

いけにえは二種類ありました。全焼のいけにえと和解のいけにえです。

全焼のいけにえは、祭壇の上で焼き尽くされました。これは、完全な服従を象徴します。和解のいけにえは、焼き尽くすことはしません。いけにえの一部は、いけにえを持ってきた人自身が食べます。これは、その人たちと神との間に交わりがあることを象徴します。

32節には、ヨシュアが律法の写しを石の上に書いた、とあります。これは十戒のことです。

その後、ヨシュアはすべての祝福とのろいを読みあげました。

これらのことは、ふたつの山の頂上で行われました。長老やさばきつかさたちの半分はエバル山に、もう半分はゲリジム山にいました。

このふたつの山は、間に緑の茂る450メートルほどの谷を挟んで並んでいました。この谷がシェケムです。つまり、天然の野外劇場のような造りです。大人数をそこに収容すること

ができます。イスラエルに行けば、この場所を訪れることができます。ふたつの山の間にいれば、祝福とのろいの両方を聞くことができたでしょう。

ひとつの山からは祝福が読み上げられ、もうひとつの山からはのろいが読み上げられました。その内容は申命記28章に記されています。

ここでは、祝福とのろいの条件のみを読むことにしましょう。

申命記28：1-2と28：5を読みましょう。

28:1 もし、あなたが、あなたの神、【主】の御声によく聞き従い、私が、きょう、あなたに命じる主のすべての命令を守り行うなら、あなたの神、【主】は、地のすべての国々の上にあなたを高くあげられよう。 28:2 あなたがあなたの神、【主】の御声に聞き従うので、次のすべての祝福があなたに臨み、あなたは祝福される。

28:15 もし、あなたが、あなたの神、【主】の御声に聞き従わず、私が、きょう、命じる主のすべての命令とおきてとを守り行わないなら、次のすべてののろいがあなたに臨み、あなたはのろわれる。

神は、民が約束の地に入ったら、どこに住むことを神が望んでおられるか、はっきりと命じておられます。

ヨシュアは、神がモーセに命じられたことをすべて行い、女や子供も含めてイスラエルの民は皆、ヨシュアの言葉を聞きました。

<u>この個所からどんなことを学んで、私たちの日常生活に応用できるでしょう。</u>

おもにふたつのことを学ぶことができます。

1. <u>神が要求されたふたつのいけにえ、全焼のいけにえと和解のいけにえから学ぶことができます。</u>

まず、祭壇は人工のものではいけませんでした。ヨシュアは、出エジプト20：25に従いました。いけにえと人の働きを混同してはいけません。

レビ記1：3によると、全焼のいけにえは傷のないオスの動物をささげます。これは、来たるべき主イエス・キリストのいけにえを指し示します。主イエスは、罪のない男性でした。

イエスは私たちを罪の罰から救うため、ご自身のいのちを完全にささげてくださいました。惜しみなく、すべてをささげてくださったのです。

同様に、私たちも自らの人生を「生きた供え物」としてこのお方に惜しみなくささげるよう望まれます。

ローマ12：1-2

12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。 12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

皆さんはもうそのようにしましたか。

和解のいけにえは、いけにえを持ってきた人と神がそれを分かち合いました。つまり、神と交わりを持つことができ、神の前に喜ぶことができるという意味です。

それを可能にするのは唯一、イエス・キリストの犠牲をとおしてのみです。

2. 私たちの生活における神のみことばの必要性

ヨシュアは、神のことばを読みあげただけでなく、それを書き記しました。また、子どもたちでもわかるような方法で神のことばを読みました。

個人生活でも、ともに礼拝をささげる教会生活でも、神のみことばはその中心にあるべきです。

神のみことばを正しく解釈して理解すること、そしてそれを日常生活に応用することは、神の道を従って歩み続ける助けになります。

多くの人が、神のみことばから多少逸脱した内容の本を書きます。私たちは、神のみことばについての人の解釈ではなく、神のみことば自体によって納得し、確信を得ましょう。

ヨシュアは神のことばを変えることなく、宣言しました。

私たちが神のみことばについてどう思うかは神にとって関心事ではありません。神は、私たちが信仰によってみことばをすべて信じて生活で実践することを望まれます。それは、文字通り、24時間の6日間の天地創造も含みます。

私たちが神のみことばに忠実であれるよう、神が助けてくださいますように。